

たどつのもかし

Vol. 26 令和5年3月27日発行

「盛土山古墳」の調査で新たな形象埴輪出土!!



掘削状況

令和5年2月～3月に県指定史跡「盛土山古墳」の調査を行いました。今回の調査では墳丘の周りを巡る溝である「周濠」の確認調査を行いました。盛土山古墳には以前から古墳の墳丘の周りを囲むように2重の溝（二重周濠）が巡っているとされ、平成5年の調査でもその一部を確認していました。今回史跡範囲の一部を町民

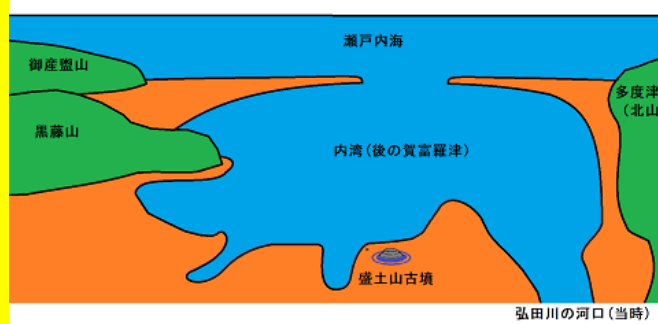
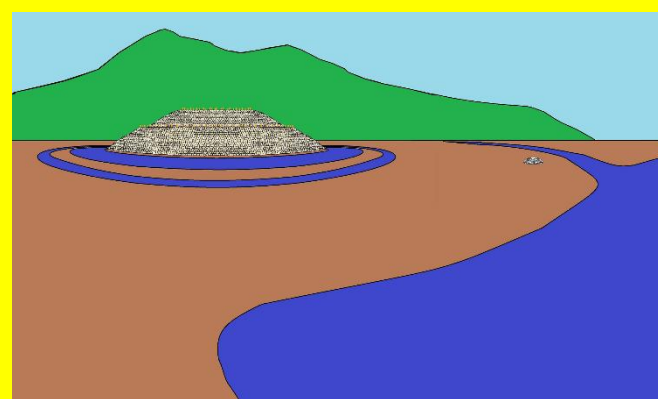


調査区から

の方に寄付していただいたことで、その区画について二重周濠、特に外側の溝（外濠）の状況を確認しました。地中に埋没するそのような遺構は特に田んぼや畑の下にあるものについては耕作によってその多くが失われてしまうことが多いですが、ここでは掘削した3か所のトレンチ（2メートル幅の溝掘）において、それぞれで外濠の痕跡を確認することができ

ました。外濠の幅は約2.5m、深さは30～40cm程度の浅いものでした。

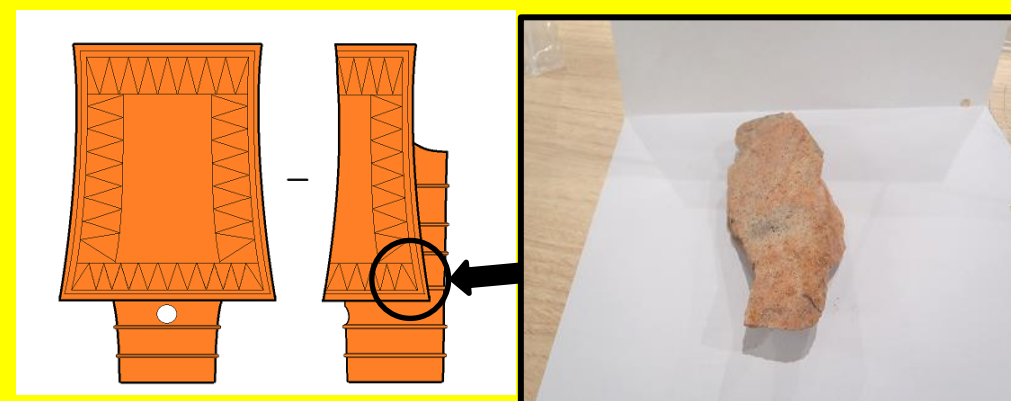
今回の調査によって分かったことは盛土山古墳の造られた場所は扇状地の砂の堆積と近くを流れる弘田川の氾濫堆積がベースとなっているということです。今回掘った場所ではそれ



盛土山古墳復元図と地形復元

そして周辺の地形復元からも現在は平野の中にポツンとある盛土山古墳ですが元々は弘田川の河口近く、そして海の近くに造られていたということが想定できます。

次に出土品について、盛土山古墳で出土するものの中で一番多いのは円筒埴輪です。そしてわずかですが形象埴輪も確認されており、それまでは靴形と蓋形の2種だったのですが、今回調査をする中で溝の中にたまった土の一部を掘ってみたところ、新たに形象埴輪の一部が出土しました。今回の埴輪は盾形埴輪で、これによって盛土山古墳出土の形象埴輪は確認され



新たに出土した盾形埴輪

るだけで3種類となりました。

らの堆積の境界線上に周濠の掘り方が入っていることがわかりました。氾濫堆積の中には大きな川原石が多量に含まれており、人力で掘り進めるのは困難を要します。そのため砂中心の扇状地の堆積部分の端っこに溝を掘った、あるいはそれ以上大きな直径で溝を掘ることはできなかったのだと推定することができます。

また今回近くの3か所を掘ることができたため、周濠の曲線がより正確になり、そこから推定できる外濠の直径は最大で77m程度になるということもわかりました。